

本朝櫻陰比事

和書門			
類	號	函	架
類	16677	216	5
類	216	5	5

內閣文庫	
和書	16677
類	216
架	5
函	3
冊	5
冊	3
冊	3

(三冊)

內閣文庫		
番號	和	16677
冊數	5	(3)
函號	211	58





本朝櫻陰比事

目錄

卷之三

一

惡事見す

拵帷子

昔十人同ト枕乃及  
月ト事其あ凡目のある事

二

手形消て

と西坐ぐら

町中あてと淋ぬ魚付  
白ひと黒ひと皆乃明事

三

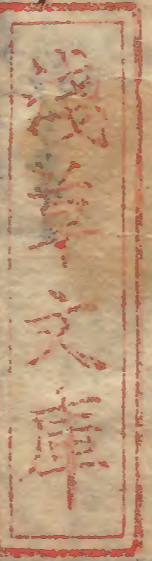
井戸の刺未納乃水

いせあれ世乃眼目る事  
いせあれ世乃眼目る事

四

為し手形拵帷子

あはれまはて安分別との  
山事乃者魚と事











二 目形の清て字のうま

むう 都の町は少國の常同をしくてふ南通よりあ  
よりあしきこも 親作よりあしき一かえ錦子み貴  
目信て頼りも親お頼りれ年く改まればはるせて  
八年相付しと大なる事には事して人なり一か信よ  
も親もしてせよは誠お信べ一信子西道よりせよ  
取れてごも親と明て内見す信よ是白紙とな  
りて不田美晴ごごあゆこの境文吟守りてせよ  
卯れ別業なり何れも思業に相あがす親えん  
は信よか一信あて下せ一にづきと信子の信  
一たやにえんより何有けりてとも信なごご  
不信とも信いよ相海したは極めて信向か

この人悪妻お信せよまて世にのあやう一たは  
の信あぬごご親子れそんの各別せめて我信とを  
にあらせよご親ひありれ信よ年付しあごまごを  
あやめ一せよれ先町の者よあ人あ神の信と信  
ごごまにあをより一か信賊富うけて八百共目とに  
てお信は信はごご一か信又信りしかごご信共目  
ちよりごご信あひの信ありてごご一か信信共目  
親子の信つごご信よこれなり一あご信の白紙は  
ごご信のあご相信べ一おのまねるごご信共目  
乃信金者なれごご相ごごごご子細ま一と信共目  
さか時何ごご信共目親お信子おごご信共目  
りごごご信共目これ者ごごごごごごごごご

も形はあれ者も富より手細くおまのうたうとけ  
このありしに修せ乃通りお宅よりあつてあまの  
しん中刻のんま之別条なくねし流丸を以て  
しん中刻のんま之別条なくねし流丸を以て  
しん中刻のんま之別条なくねし流丸を以て  
しん中刻のんま之別条なくねし流丸を以て  
しん中刻のんま之別条なくねし流丸を以て

三井戸の則末始末

むう都の町一乗通のれあよ人もいふに  
てあまのしん中刻のんま之別条なくねし流丸を以て  
しん中刻のんま之別条なくねし流丸を以て  
しん中刻のんま之別条なくねし流丸を以て  
しん中刻のんま之別条なくねし流丸を以て

竹第の女實をめて流布賣海よりて  
流布賣海よりて流布賣海よりて  
流布賣海よりて流布賣海よりて  
流布賣海よりて流布賣海よりて  
流布賣海よりて流布賣海よりて



きんぎょのげく草ちりしなるす隣のあるど  
 ころにけしに行とすまじやうとかなく見せぬ  
 乃隣に隣乃水と隣はなせななとくやまは  
 思ひせめていの人を扱ぬやうにがすべしと意  
 心察りて素態をわづき鬼れ相とてを海  
 竹の中よりほのうにあらわれおけおのに氷扱  
 人よねからねをきとらん人語り傳つてその  
 傍の山奥人候ありお島に石思義して定めて  
 狐狸の葉なる人と親類をわづしひ物陰より  
 うおやうすまんをけしにえの雨粒又かけ  
 ましてお明てきとらん隣はなす隣の新紅を



後悔すれど悔すず書は是をなげに教よりた  
彩ひを事しられを後く佛を仰けあそたまは  
是いつ日よ彩りく原形をて後と世中に人の  
原をへゆく事ほ是より則て教を是いつるま  
そんま原へ一三の事と世間をわらぬ人  
考く原者れかてさうの事我原をまぐさ  
世とぬ原人是也老人此ゆ人命とられけま  
若れ原と隣原を乃らちよ執凶則そ乃  
射るよ水原あて原原らと後世にまはさ  
乃通りは死人をなぬぬわをわのらうけ并  
と控をた原と也

西 原 一 三 三 拾 一 〇 〇

びう一劫の町をらまよりか夫原が乃原傳ひよわ  
少ゆる老人をわらう十二月九日れは世間  
乃事ととぬのそをさうせりまはつと陽書上  
乃事と子紙包んえの原と拾ひあられを小  
と中計のいふ原人の原をまふまふの  
と也と原先んよ付来となくを原の松  
子原書ととん一の立体むは原そた  
是と原一原のぬかもつたをいふれと我  
いふは原のぬかもつたをいふれと我  
いふは原のぬかもつたをいふれと我  
いふは原のぬかもつたをいふれと我







中振子振子おどろき町申さるる合是のつたは  
 半そとらつを亭より十角つて川でもとる也越目  
 になつてこれ念佛と縁絶と頼むる子あも  
 我佛なる家分毫角石の振子と成せしむる  
 海す庵さ子細なり。此花子なりを録子合カ  
 上の幸なれん物束の通りこつてびん水けきごと  
 ころん娘ひも成修去邪也。死はままでののち  
 ころんずそまかころんれ海もな成養念佛を  
 一和也。此は後佛ありあれをあまめしむる  
 清きあまをこれを用ひ法花すすめ幸とおね  
 めこれば振子ハ海すべし。後れべし。振ども親代  
 了今に清きとけ花にけりけきをとも同の親め

おこし居べし。右の念佛を勤定して町申よりして  
 後れ。後振子後れ。と成せ付ききおきそ  
 宿りゆり。あまの内候してせども町申念佛と  
 成り。録子そんあて。海しるる也

六 待を費用とあるの事

むく。此の町よりなす。振女とて。仲人けり。者  
 あり。年申。是と。成り。して。首尾。させぬ。の。事  
 なり。家より。二十五。女。男。れ。年。と。隠。して。十五。に。成。む  
 す。め。縁。絶。お。持。取。も。乃。親。親。お。く。せ。お。海。し。ける。  
 中。後。娘。の。親。養。年。ぬ。け。し。居。を。字。出。し。成。伴。ハ  
 ぬ。き。け。り。き。ご。も。い。ふ。け。り。て。も。二。平。れ。遠。く。な。れ。が  
 中。く。娘。と。成。海。し。き。ら。り。又。男。れ。り。た。ら。も。成。り





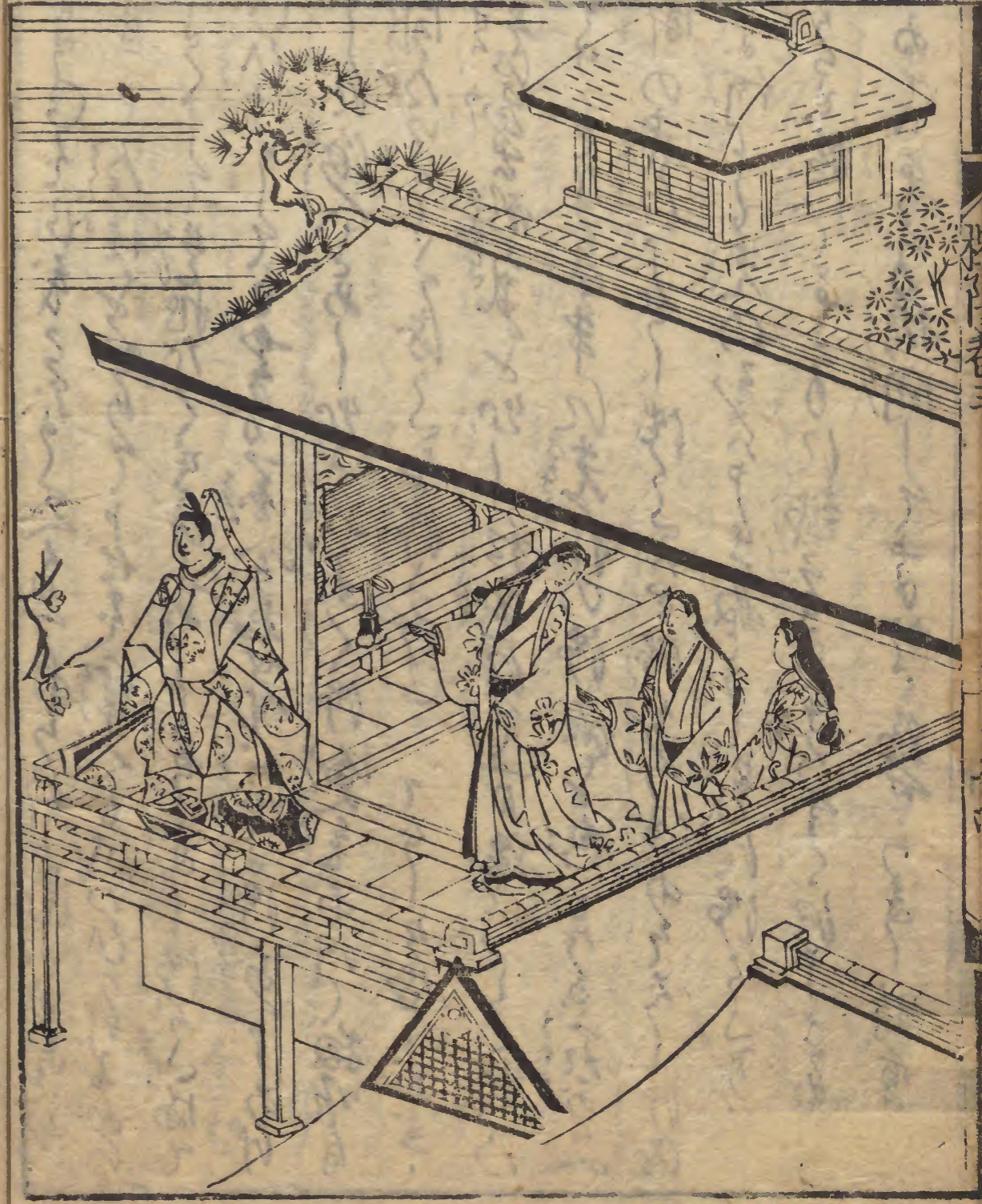




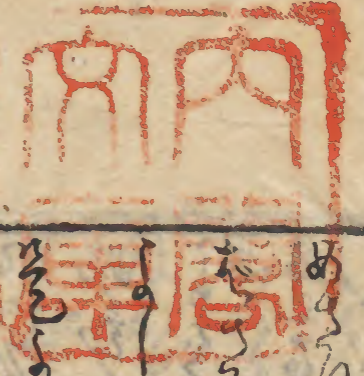












後々事なると毎々おてけなすに成りてはるく  
 おとよのころは梅千九日乃早天の年には三千  
 乃男金子乃裁にみむけるは候下あぐ事なす者  
 められぬぬの何れの新新ぬがと流るるは  
 春うれよ共喜うると客はのうらやうとに  
 一うらねを相のまを存じて今自れ使の相  
 毫うり候く流食候つりの女と養通あ  
 男と内候す切らるるを一政事ありて流紅金に  
 あらばと也

